

## 第 4 回 福岡市環境基本計画（第三次）策定作業部会 意見対応

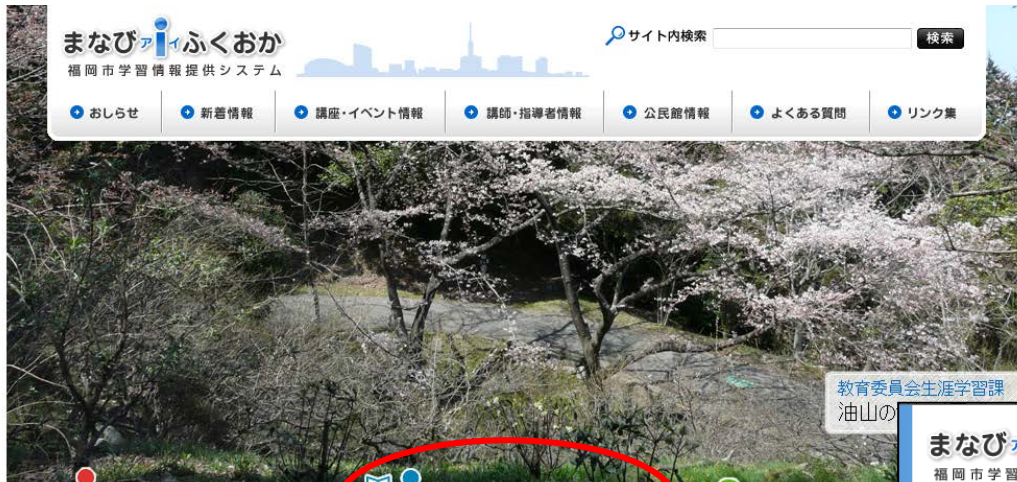
部・章	分類	意見・質問	対応
全体	表記	計画の中に「共働」、「協働」との用語があるが、使い分けているのかどうかを再度確認していただきたい。(松藤委員)	→ご指摘を踏まえ、標記を「共働」に統一
	全体	すみたいまちふくおかをアピールできるような、市としてのメッセージ性を示せるようにしたい。(松山委員)	→市長挨拶など、総括的な文章の中で市としてのメッセージを表現する。
第 1 部	イラスト	めざすまちの姿のイラストは、分野別のまちの姿の後でも良いと感じる。(松藤委員) 全体のイラストに含まれる各要素には番号を付けるなどして解説（凡例）を加えた方が分かりやすくなる。(松藤委員) イラストは分かりやすくて良い。分野別のまちの姿が、全体のイラストとリンクしているとなお良いと考える。(小出委員) 全体のイラストについては、位置関係等を精査してもらいたい。(古山委員) 全体のイラストは不要である。行政計画という位置づけにおいて、市民に分かりやすいまちのイメージは必要性が薄い。また、めざすまちの姿としてスローガンに掲げる豊かな自然と歴史に育まれたイメージや未来へのちをつなぐイメージをイラストにするのは、大変困難である。本計画が行政計画である位置づけを踏まえると、全体のイラスト同様に、分野別のイラストも特に必要性は感じられない。(浅野会長)	→イラストは基本計画本体には掲載せず（必要最低限の挿絵等にとどめる）、表紙や概要版、HP 等で活用する。
	めざすまちの姿のリード文	めざすまちの姿の文章について、課題やネガティブな内容が多い。技術により克服してきた歴史もあるはずであるため、ポジティブな内容も検討できないか。(古山委員)  当該部分はポジティブ過ぎる表現も不自然である。技術で全てブレイクスルーできるわけでもないことから、課題として整理することで良いと考える。(浅野会長)	→めざす姿の文章について、不自然にならない範囲で、課題を克服してきた歴史の要素を追加。

部・章	分類	意見・質問	対応
第2部 第1章	全体	低炭素の分野に限ったことではないが、施策名や施策の並びがぱっと頭に入らない。(小出委員)	→極力、わかりやすく体系的に整理する。
		施策の所管課は消さない方がよい。施策の責任を明確にすべきである。(浅野会長)	→関係課、あるいは局名を掲載する。
		施策の所管課は、他局も挙がっており、庁内の意欲的な姿勢が感じられて良い。(古山委員)	
		各項を代表するような成果指標を挙げているが、個々の施策を定量的に評価できる指標設定となっているか。設定についての説明が不足している。(浅野会長)	→ご指摘を踏まえ、指標設定の考え方についての説明を記載。
	今回の素案では半分程度の成果指標に数値が入っていない状態であるが、次回作業部会までにどのように進める予定か。数値設定の方法が不明確であり、最後の作業部会で突然示されても、数値の妥当性等を判断できない。(松藤委員)	→開催通知時に、前回作業部会のたたき台に現段階の数値を記載したもの＝全庁意見照会版を送付	
低炭素	第1項の次世代自動車の台数は、補助金交付数等を成果指標として加えても良いと考える。(古山委員)	→データ把握が困難なため、交通に関する指標には、「1日あたりの鉄道・バス乗車人員」など、既出の指標を用いる。	
	登録台数など、どの程度のレベルで市域のデータを把握するかが難しい。(浅野会長)		
自然共生	第2項の最後の成果指標について、「油山市民の森、自然観察の森、背振少年自然の家等～」の「等」は、指標として不適切である。対象施設が多いのであれば、「市の管理施設」といった表現でも良い。	→ご指摘を踏まえ、対象施設名を明記したものに修正する。	
循環	不法投棄処理量は市内だけの量か。(小出委員)	市内のみの量である。また、ごみ処理量の成果指標が47tとなっているが、正しくは47万tである。修正する。(循環型社会計画課長) →当日の回答どおり。ごみ処理量の単位を修正する。	

部・章	分類	意見・質問	対応
	快適で良好な生活環境	<p>第1項の成果指標は、100%で問題ないか。(松藤委員)</p> <p>例えばPM2.5の場合、家庭におけるへパフィルタの設置数という考え方もできる。環境基準では、市の実行する施策の成果として成立しない。(古山委員)</p> <p>予報精度の向上等も考えられる。(浅野会長)</p> <p>より多くの市民に情報が行き渡るという観点の指標も良い。(古山委員)</p> <p>環境基準は施策の成果につながらないため、予報精度の向上等に変更すること。(藤本部長)</p> <p>第3項の施策として、「森林病害虫等の被害対策の推進」が挙げられているが、セアカゴケグモといった特定外来種も挙げられないか。(松山委員)</p> <p>同じ外来種の施策でも、生活の安全と生態系では観点が異なる。(浅野会長)</p> <p>第3項の成果指標について、ヒートアイランド対策に対してみどりの面積とするのは違和感がある。都心部と郊外の温度差等にすることはできないか。(浅野会長)</p>	<p>→当日のご指摘を踏まえ、指標をPM2.5の予測精度へ変更。</p> <p>P26 第1項の施策として、「外来種による被害の未然防御」を挙げている。(環境調整課長)</p> <p>→第4節快適で良好な生活環境のまちづくりに追加</p> <p>→測定地点等の課題があり温度差を指標とすることが難しいので、屋上緑化を含む、都心部における緑被面積を指標とする。</p>
第2部 第2章	分野横断型施策	<p>エコ検定の受検者数等があっても良いと考える。(小出委員)</p> <p>環境教育や環境リーダー育成の観点の成果指標がもう少しあった方が良い。また施策としても、小学生向けだけではなく大人向けの環境教育用の教材が欲しい。(浅野会長)</p> <p>人材のネットワークの観点では、環境リーダーをHPで登録リストを紹介できるような仕組みがあると良い。(古山委員)</p>	<p>第2項の初めの施策につながる。幅広い年齢層に対する環境教育ツールの開発等も検討していきたい。(環境経営課長)</p> <p>→学習ツールの充実について記載を追加。</p> <p>また、人材のネットワークを紹介するものとして、「福岡市環境情報提供システム(まなびアイふくおか)」があり、その中の「環境教育・学習人材リスト」にて、環境に関するリーダーを登録・紹介している。(5頁参照)</p> <p>また、「環境教育・学習人材リスト」の登録人数について、分野横断型施策の第1章「人づくり・地域づくり」における指標としたいと考えている。</p>

部・章	分類	意見・質問	対応
		<p>計画全体を通して、産学官の連携を図るような内容は入っているか。教育機関との連携の観点を入れてもらいたい。(古山委員)</p> <p>研究者の立場として、研究機関との連携や協力について、もう少し具体的な内容を検討していただきたい。(藤本部長)</p> <p>踏み込んだ表現がないので、施策として弱い印象がある。検討していただきたい。(浅野会長)</p>	<p>→当日のご指摘を踏まえ、廃棄物処理技術やスマートコミュニティ形成に関する記載部分において産学官連携の記載を追加。</p>
第3部	計画推進の推進体制	<p>P47の各主体の連携については、4番目の主体として大学や国際機関等も加えてはどうか。(松藤委員)</p> <p>本計画の中で市民や事業者と同様に役割を与えられるか。主体として扱うには難しいように考える。(浅野会長)</p> <p>第3部第1節第1項の一文目について、意識の変化は課題にならない。またPM2.5が社会システムそのものの転換にはつながらない。文章表現を再度検討していただきたい。(浅野会長)</p>	<p>→大学や研究機関は主体としては加えず、施策の中で記載を強化する。</p> <p>→ご指摘を踏まえ、文章全体を修正。</p>

<参考～福岡市環境情報提供システム（まなびアイふくおか）>



URL : <http://gakushu.city.fukuoka.lg.jp/>

